

第2回 日高市巾着田利用調整協議会 業務進捗報告資料



令和5年8月25日

日高市の現状

人口減少が喫緊の地域課題となっており、特に生産年齢人口は周辺自治体と比較しても極めて低位。20代～30代(=日高で育った若者)の流出は深刻。

就労環境の創出を実現するために、工業団地整備や企業誘致に取り組む成果が見られるが若者は依然として減少傾向。

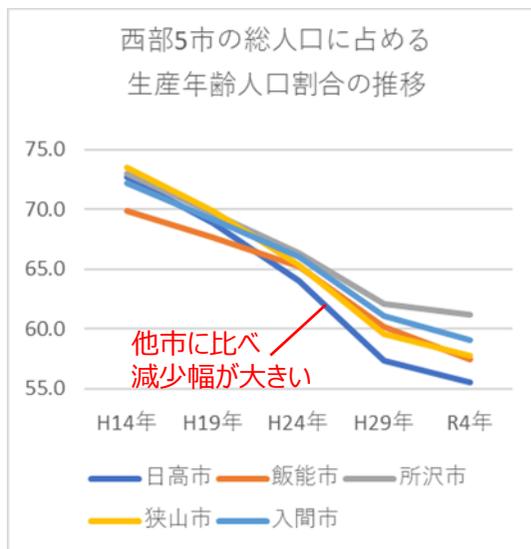
⇒若者に魅力的な産業の創出や、起業支援による関係人口創出

巾着田の現状

祭りや「遠足の聖地」ブランドの発信等により年間約64万人(R1年度)が来場する賑わいの場である一方、地域に対する利益還元は限定的。

また、BBQ客によるごみ問題、交通渋滞等、オーバーツーリズムが発生し自然・生活環境に対する悪影響が発生している。

⇒環境保全を重視した持続的な利活用の実現



彩の国統計情報館より



日高市人口ビジョンより



飯能市HPより



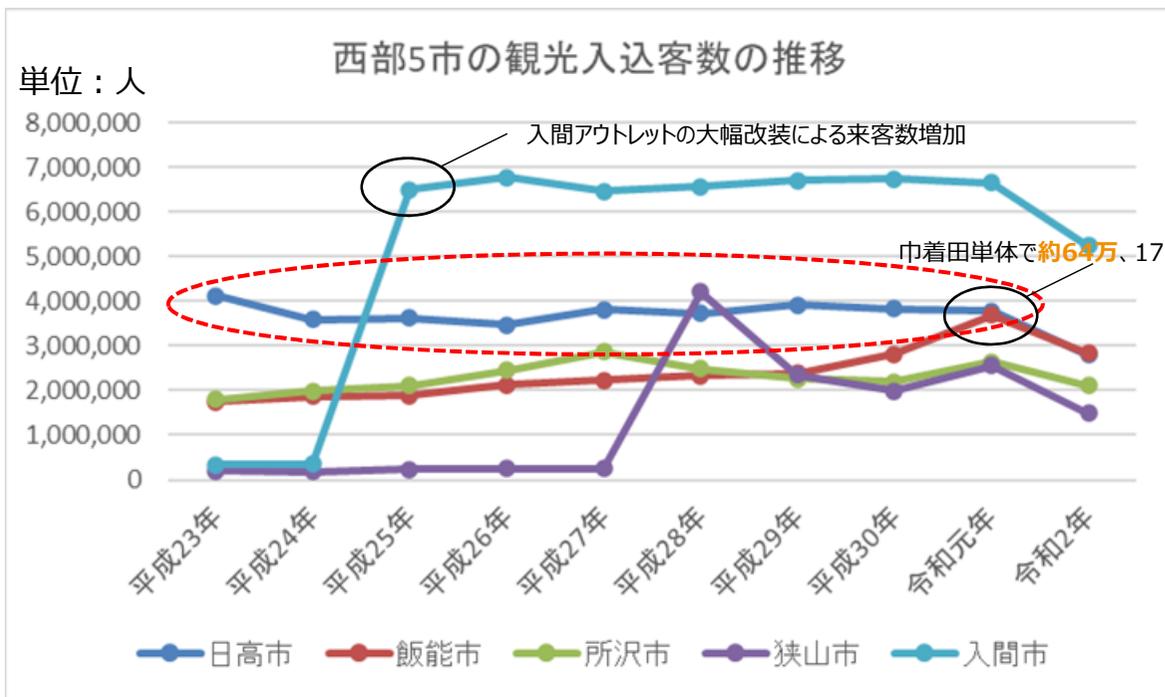
飯能河原有料化実証実験 (2022年5月)

日高市の人口減少が続き将来的な歳入減少が見込まれる中、曼珠沙華祭りの収入や行政によるヒト・カネの手配のみに依存した巾着田の維持管理、環境保全には限界がある

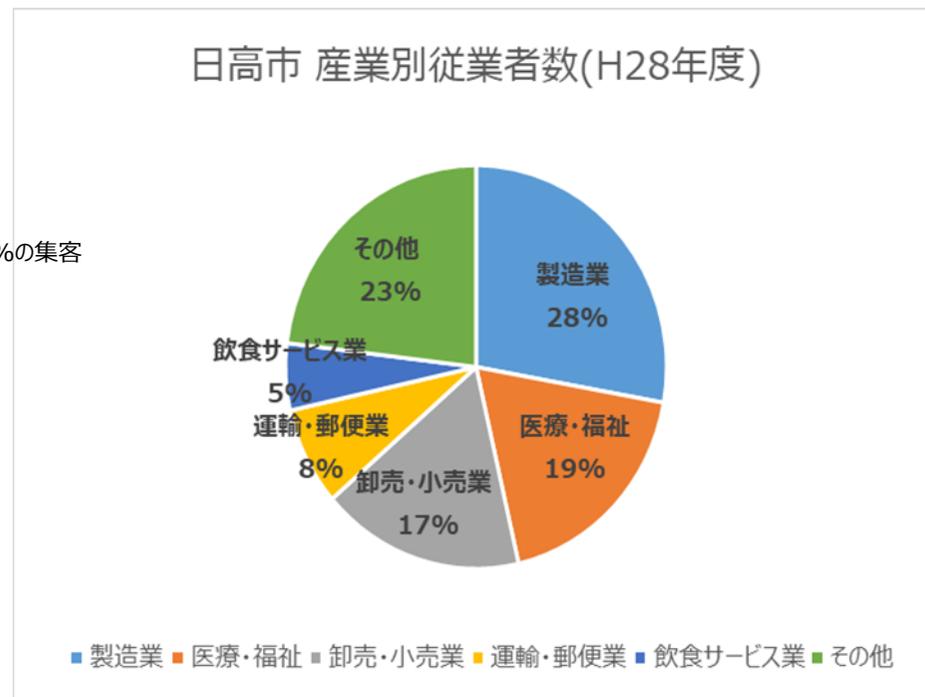
⇒巾着田の持続的な利活用を目的として、環境保全と地域経済の活性化を目指すことが求められる

【ポイント】
ポテンシャルがあるのに若者に魅力がある産業創出ができていない

- ① **巾着田のポテンシャルは高い** 観光名所である飯能市と同水準(飯能河原の約8倍)の集客数であり、県西部でトップクラスの集客を誇る自然観光資源
- ② **観光産業は未発達** 祭り等のイベントを除けば、巾着田を活用したビジネスを行う事業者は極めて少数
- ③ **若者のニーズとのギャップ** 市内で育った若者は、既存の日高市産業で魅力的な働き口を見出せずに流出しており、ニーズとのギャップが明確

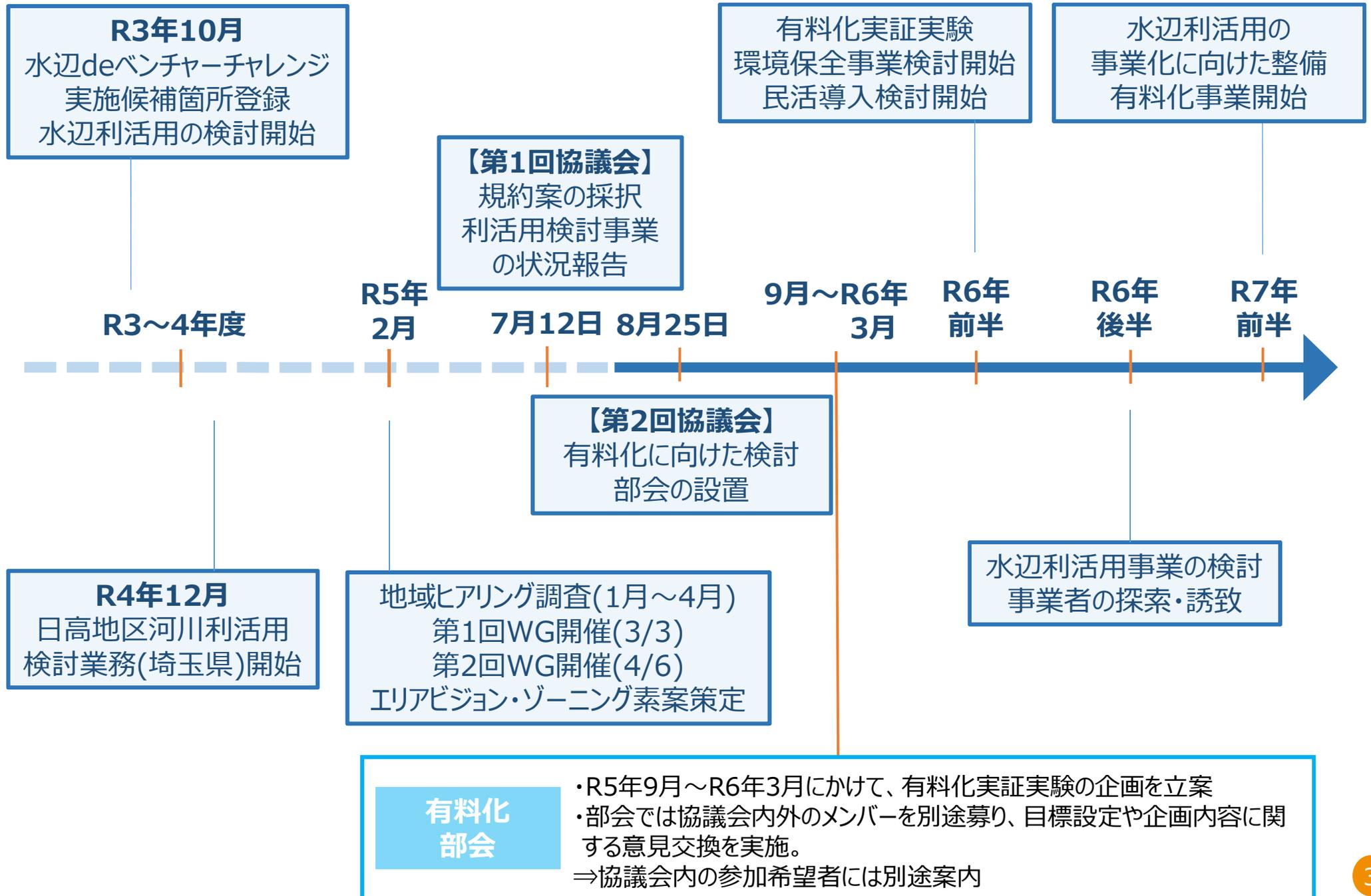


埼玉県観光入込客統計調査結果より



日高市「統計ひだか3-3 産業別就業人口」より

巾着田の環境を維持しつつも、ポテンシャルを活かした利活用をどのように行っていくか



WGで出た意見		エリアビジョンの方向性	利活用事業
★ 観光	集客	・1年を通じて(四季を)楽しめる場所	・宿泊施設、道の駅、ワーケーションスポット、キャンプ場、 ・イベント開催(野外イベント、季節のイベント)
	稼ぐ力	・名産品(特産品)の開発 ・地域に収益を還元できる仕組みの構築 ・自立型・循環型の地域経済の活性化 ・官民連携	・コラボ商品の開発(ふるさと納税の返礼品) ・BBQ、キャンプの有料化 ・有料駐車場を増やす ・利用者のオペレーション体制
	交流	・老若男女が集う場所 ・若者が集う場所	・体験コンテンツ ・クラフト(ワーク)ショップ ・ストリートスポーツ施設
★ 地域の調和	郷土愛	・地域内外の多くの人から愛される巾着田	
	環境	・環境保全と観光推進の両立 ・SDGsを考えよう/未来のために皆で考えよう	
	生活	・地域住民を尊重したまちづくり ・秩序とサービスの共存	・運営体制の構築 ・夜間利用の管理体制
	交通 災害	・渋滞/駐車場不足の解決 ・災害に強い地域	・公共交通機関との連携 ・シェアサイクル
★ 自然と歴史	自然	・自然と触れ合える環境づくり ・緑、清流、風を感じれる場所	・自然学習コンテンツ(花や農業) ・自然ツーリズム ・フラワーアレンジメント
	動物	・動物とふれあうことができる場所	・動物と触れ合えるコンテンツ ・ドッグラン ・釣り堀
	農業	・農業にチャレンジできる場所 ・地元農家と地域住民をつなぐ場所	・地元の野菜が使えるシェアキッチン ・キッチンカー ・新しい農作物を栽培する実証実験場
	歴史	・自然と歴史を体験できる場所	・学習施設 ・歴史学習コンテンツ(水車/高麗神社/聖天院/巾着田の形)
★ 子供	遠足	・遠足の聖地(思い出作りの場所) ・子供の集い(楽しめる)の場所 ・学びの場所	・林間学校で利用できる宿泊移設 ・親水公園 ・古民家の屋上で昼食を食べられるようにする
	家族	・家族が楽しめる場所 ・女性目線の地域づくり ・子育て世代が戻れる(住みたい)場所	・子供が安全に遊べる体制(安全見守り人の配置) ・家族でゆっくりできるアウトドア施設
★ その他	健康	・みんなで運動、健康長生き	・ランニングコース、散歩コースの整備 ・スポーツ振興
	福祉	・誰でも(高齢者/障害者/子供)楽しめる場所	・街のバリアフリー
	移住	・世代を超えた観光(観光→移住) ・定住人口の増加	・古民家で宿泊 ・ホームステイ
	創業	・新しいビジネスに挑戦しやすい環境	・企業誘致

【結果について】

- ・巾着田に愛着を持つ人が多い一方で、利活用について具体的な展望を持つ人は少なかった。
- ・利活用の促進自体に対する反対意見は上げられなかった一方で、**景観や生態系保全**への強い要望が多かった。
- ・持続的な保全を目的とした巾着田の利活用推進に対する理解が見られた。

ビジョンの 方向性	賑わい・地域活性化	件数	環境・生活保全	件数	中間	件数
	産業の創出	2	自然を感じられる場所	1	持続的な観光・環境保全	3
	起業による賑わいづくり	1	巾着田の昔の風景の復元	1		
	PR・管理体制の充実	2	環境保全の意識醸成	1		
	オフシーズンの活用	4				
	親子で楽しめる場所	3				
	地元への経済還元	2				
	名産品の開発	1				
	リピーターの増加	1				
	地域の人々が楽しめる観光地づくり	2				
	合計	18	合計	3	合計	3

【結果について】

- ・各キーワードを両立する形で、地域活性化と環境・生活保全が相互に作用することを重視。
- ・「親子」や「地域の人々」を対象とした利活用や、年間を通じて楽しめる場所づくりが求められている。
- ・現在の巾着田の保全や風景の復元など、既存の取組みを活かした環境保全の継続が必要。

本結果を基に、「持続的な観光・環境保全」と「地域活性化」の両立をエリアビジョン素案として提案

必要な 取組み	賑わい・地域活性化	件数	環境・生活保全	件数	中間	件数
	二次交通の確保	1	BBQの禁止	1	私有地の買い上げ(市)	1
	体験ツアーの造成	1	BBQのエリア変更	1	駐車場の確保	2
	地域の雇用促進	1	渋滞の緩和	2	住民と企業の協力体制	3
	利活用を進める組織の設立	2	公共交通機関の利用促進	2	法規制の変更	1
	観光振興に必要な資金の確保	1	住民の理解醸成	2	地域への愛着醸成	1
	既存設備の再活用	1	環境保全事業の創設	1	環境保全を行うための収益づくり	1
	PRを行う体制の構築	1	夜間侵入の防止体制構築	1		
	安全に巾着田を楽しめる仕組みづくり	1	清掃に関する取り決め	1		
	収益性の高いターゲット層向けの事業	1				
合計	10	合計	11	合計	9	

【結果について】

- ・各分野を包括的に検討する一方で、実現に要する時間や人員・財源の観点から優先順位付けは必須
- ・利活用を検討する組織(協議会、部会等)、協力体制構築、理解醸成を目的に協議会・部会等を設置
- ・公共交通機関との連携や清掃・夜間管理等では、協議会外の民間団体、事業者との連携が必要

本結果を包括的に纏めて「取組方針」に反映し、今後の検討の中で優先順位付けを実施

利活用 事業	賑わい・地域活性化	件数	環境・生活保全	件数	中間	件数
	年齢を問わずに楽しめるコンテンツ	1	田畑の拡大	1	貸農園	1
	定期的なイベント・マルシェ開催	2	農業体験の提供	2	丸ごと自然科学博物館	1
	持続的なコンテンツ	1	自然学習コンテンツ	1	BBQ有料化・手ぶらBBQの推進	4
	キッチンカーの導入環境整備	1			入園料の徴収(都市公園部分)	1
	道の駅の整備	1				
	アスレチック・遊具の整備	2				
	親水施設・遊具の設置	1				
	野外ライブの開催	1				
	飲食スペースの確保	1				
	物産開発・販売	1				
	合計	12	合計	4	合計	7

【結果について】

- ・アスレチック・農業体験・オープンミュージアム等の自然環境を活かしたコンテンツが多くみられた。
- ・BBQ有料化については観光振興、環境保全、収益性等の観点から早急に実証を行うことが望ましい。
- ・本内容を包括的に纏めたゾーニング案を基に、民間事業者・団体等に対する実現可能性の調査が必要

河川区域及び既存公共施設の活用を主眼に置いたゾーニング案の策定に反映

「観光」の定義について

- ・「巾着田」において実現可能な観光とは何か。
 - ・リゾート施設の構築からエコツーリズム、体験型観光等、地域によって事業のや担い手の在り方は様々。
- ⇒第3回協議会において、サウンディング調査の結果報告を基に意見交換
 ※サウンディング調査：複数業種の15社に対して利活用に関する意見を聴取

有料化について

- ・マナー向上やごみ不法投棄等の現状を踏まえ、来年度に実証実験で有効性を検証。
 - ・目的設定や企画の立案、実施体制の検討等を実施。
- ⇒9月以降、2～3回程度の頻度で有料化検討部会を開催し企画を立案
 ⇒来年度GW時期の実証実験実施を目指す

環境保全
地域へのメリット還元
について

- ・環境保全活動の在り方や、新たに実現したい取組みを検討。
 - ・上記活動の財源確保や、その他地域にとって利活用のメリットを整理。
- ⇒環境保全については第4回以降の協議会や部会等によって意見交換
 ⇒地域へのメリット還元は、ラボたま受託業務の最終報告時(第3回又は4回協議会)にイメージを提示。

民間活力の
活用について

- ・観光や環境保全、地域への還元等の整理と並行して、河川区域や公共施設を中心とした民間活力の活用を検討し、管理者(県・市)に提言を実施。
 - ・必要に応じて民間事業者と協議会の意見交換の場を設定。
- ⇒第3回協議会におけるサウンディング調査結果報告・意見交換の結果を基に今後の検討フローを策定